

H26年度JAQG活動報告会アンケートでの主要なコメントとその回答

JAQG幹事会

コメント等	回答
2. 知りたい内容がカバーされていましたか？	
9100:2016に対する改正動向についてもっと情報がほしい。	今後の改正検討進捗に合わせ、情報提供する予定です。
活動状況は分かりましたが、どのように役立っているか役立てようとしているかが分かりません。	今後の報告会説明時の改善点として、内容について分かり易く簡潔に説明するよういたします。
説明は配布資料の内容を読み上げるようであり、読めばわかることは省略して、もう少し突っ込んだ説明が欲しかった。	今後の報告会説明時の改善点として、内容について分かり易く簡潔に説明するよういたします。
特殊工程の話をもっと聞きたいです。サプライヤがNadcapやCustomerの認証をどのように取得することができるか etc	申し訳ありませんが、現状では、個々のサプライヤ様へのNadcap取得対応・サポートを実施する予定はございません。特殊工程WGでは、Nadcap 日英対訳版の準備やPRIへの意見提言等を通じて、サプライヤ様のNadcap受審をサポートしてまいります。
3. 以下の説明は分かりやすかったですか？	
JAQGとして今年度どのような活動をしたいのか？今年度重点実施したステークホルダーとの関係構築はどのように進んでいるのか？という点があり報告されていなかったと思います。	ステークホルダーとの関係構築も今後とも推進し、成果が報告できるようにいたします。
説明会と報告会を同日開催ということで足早で内容が薄くなっていないか。	今後の報告会説明時の改善点として、内容について分かり易く簡潔に説明するよういたします。
ヒューマンファクターズについては有意だと思いがざっと聞いただけでは理解がおいづかなかった。	今後の報告会説明時の改善点として検討します。
要員能力の検討はポイントのみを10分間で説明された方がよい。	今後の報告会説明時の改善点として検討します。
内容が多すぎて消化不良でした。	今後の報告会説明時の改善点として、内容について分かり易く簡潔に説明するよういたします。
4. 報告会全般について満足されましたか？	
ISO9001改正動向は具体的に良かった。9100はスケジュール的に今は、そのレベルにないようですが、来年の活動報告会を待たず、途中で報告会なさることを希望いたします。(2015/秋?)	報告会でも説明しましたとおり、IAQGで決められた、9100作業ドラフト取扱い上の制約があるため、改正箇所具体的な内容は現時点で開示できないこと、ご承知おき下さい。改正内容の具体的な説明は、今後の改正検討進捗に合わせ、情報提供するよういたします。
報告テーマが多すぎ、時間の割に各々の報告が多い。テーマを絞って報告してはどうか。	今後の報告会説明時の改善点として、内容について分かり易く簡潔に説明するよういたします。
かなり早くで報告されたところは時間の関係かと思いますが判り難くテキストを読んで分かる事項と説明でしか分からない部分を分けて後者を中心としてはどうか？	今後の報告会説明時の改善点として、内容について分かり易く簡潔に説明するよういたします。
全体的報告時間が短い。	今後の報告会説明時の改善点として、内容について分かり易く簡潔に説明するよういたします。
9100の適用は日本航空宇宙工業会(SJAC)・航空宇宙業界にどういう成果・問題をどう評価・検証していますか？	航空・宇宙・防衛の要求が1元化されることによって手順等の効率化が図られていると考えております。引き続き促進していきます。
テーマをもう少し絞り、テーマ毎の時間を多くとってはどうか。	今後の報告会説明時の改善点として、内容について分かり易く簡潔に説明するよういたします。
マイクを通しての音が大変聞きづらかった。マイクの使用に工夫がほしい。	マイクは手持ちタイプを使用する等改善します。
3-6以降の報告時間が短く、内容を良く理解できなかった。	今後の報告会説明時の改善点として検討します。
改正動向よりもWGの活動報告に時間を配分したほうがよかったですのではないかと。	今後の報告会説明時の改善点として、内容について分かり易く簡潔に説明するよういたします。
午前午後で同じ説明をしている部分は不要。資料見ておいて下さいと済むのと多。	今後の報告会説明時の改善点として、内容について分かり易く簡潔に説明するよういたします。
5. JAQGの方向性/活動内容に満足されましたか？	
提案のあったNDT LIII、LII管理組織生成については是非前向きな検討をいただきたい。	今後、WGで検討を実施し、必要なアクションを実施していく予定です。
航空宇宙業界の特性を十分に配慮した規格改定についてIAQGでも討議してもらいIAQGのフローダウンが主活動に見受けられる。もう少し会員サプライヤの意見吸い上げを図ってほしい。	今後の規格改正活動時に十分留意し取り組みます。
航空宇宙業界の特性を十分に配慮した規格改定についてIAQGでも討議してもらいIAQGのフローダウンが主活動に見受けられる。もう少し会員サプライヤの意見吸い上げを図ってほしい。	JAQGからIAQGへ適宜、意見を提言し、日本の意見が反映されるように働きかけております。吸い上げ活動については継続的に行います。
6. 質疑応答の時間は十分でしたか？また質問回答に満足されましたか？	
報告される項目・テーマはもう少ししぼって運営された方がよいのでは。	今後の報告会説明時の改善点として、内容について分かり易く簡潔に説明するよういたします。
非破壊試験検査員の資格認定機関の設立について：非破壊試験の資格認定はご存知の通りNAS410によりレベル3検査員が資格認定し雇用主が承認することになっております。レベル3検査員になるには教育訓練、経験年数など厳しい制約が課せられ、非破壊試験を開始しようとするサプライヤには当然ながら存在しません。そこでやむなく外部機関に頼ることになります。これは顧客にも多大な負担をかけることになり、引き受けていただけないケースもあり、皆さん大変困っております。NAS410では外部機関に替る組織としてNational Aerospace NDT Board (NANDTB) が認められています。英国、ドイツ、オーストラリアなどでは既に設立されているようですが、そこでは航空宇宙工業会が主導して、大手企業がメンバーを送り込んでいるようです。そこで、お願いですが、こうした組織を是非日本でも設立していただきたいのです。これが実現すれば、次のようなメリットが予想されます。 ① 中小サプライヤの航空機産業への参入が容易になる。 ② プライム各社にとってもサプライヤ指導の軽減が図られる。 ③ 各企業の雇用主にゆだねられている資格認定制度の濃密さが、平準化される。サプライヤ、プライム双方にとってメリットがありますので、是非とも実現に向けて主導していただきたく申し申し上げます。	今後、ご提案頂きました案件について、サプライヤ(新規含め)／プライムの双方のメリットを考慮しつつ、背景となる状況の調査も含め、検討を実施していく予定です。また、必要により、監督官庁様のご指導を頂く共に、関係する各団体との連携も考慮すること致します。上記検討の結果、メリットがあると考えられる場合には、実現に向けて必要なアクションを実施してまいります。
スペックのRevについて：官需では初回試験の制度があり、初期審査を行い初回試験のベースラインが確定されることはご存知の通りです。当然ながら、当該製品に使用されるスペック(Rev ち含め)もそこで登録されることとなります。このベースラインは初回試験の前提となっている要素ですから、業者の任意で変更してはならないのは言うまでもありません。しかし、スペックは当然ながら頻りに更新されていきます。すると継続生産中にベースラインのRevと相違が出てきます。そうした場合、どう対応すべきか JAQG としての公式見解を伺いたい 1) あくまで初回試験時の Rev を適用しなければならない。 2) そのまま更新された Rev を使用してもよい。 3) 変更通知書を発行し、設計権のある技術部門の許可をもらい更新された Rev を使う。 実態を申せば、あくまで初回試験時の Rev を使うよう顧客(プライム)から指示されており、同じスペックでありながら旧版のプロセスと新版のプロセスを泣く泣く、平行して維持しているのが現状です。JAQG の公式見解 は上記いずれなのか HP にでも載せていただけないでしょうか。	契約に従い対応するのが基本と考えますので、JAQGから公式見解を述べるのは適当でなく、控えて頂きたく存じます。なお、初回試験要領書等にてスペックのREVが指定されている場合、特に契約書等に明記されていない限り、そのスペックの更新されたREVを届け出/申請等の通知なくそのまま使用する2)案は許容されません。

9. JAQGとして取り組んで欲しい活動項目。「全般」または「WG名」と活動項目を記入

全般: リスク(予防処置)管理規定	今後のWG活動の参考とします。
特殊工程検討WG: AC7120の需要は無いのでしょうか。(質問内容と違うかもしれませんが)	現状では、他のサプライヤ様でのAC7120の需要は無く、当該ACの日英対訳版の準備は、今後の需要により判断させて頂きたく存じます。ご了承下さい。
特殊工程検討WG: 日本人のNadcap Auditor育成	現在、WGにて日本人Nadcap監査員増員への対応・方策について、検討中です。
特殊工程検討WG: NDI レベル3 養成教育プログラム	今後、WGで検討を実施し、必要なアクションを実施していく予定です。
全般: メンバーの協力もあると思いますが活動をどう役立てるかについて、事例等	今後のJAQG活動の参考といたします。
SCMH WG: APQP/PPAP関連の展開(MSA、Capacity、Validation等)	APQPに関しては2015年度中にSCMH和訳版を発行します(7.2章)。またMSA等もIAQGのSCMHが発行され、やがて日本語版も発行していく予定です。
要員能力検討WG: HFの教育・訓練を支援する活動	今後のWG活動の参考とさせていただきます。
SCMH WG: リスク管理、プロジェクト管理	リスク管理はSCMH和訳版発行済み(7.3章)です。参照してください。プロジェクト管理については、今後IAQGのIAQGのSCMH作成時に参考とさせていただきます。
要員能力検討WG: ヒューマンファクターズ	既にヒューマンファクターズのガイダンス文書を発行しておりますが、今後改訂版を発行する予定です。
SCMH WG: 中小企業、零細企業にもわかり易いSCMHにしたい。	中小企業、零細企業にもわかり易いSCMHになるよう取り組んでいきます。
規格検討WG: 9100の改訂→指針(中小企業向け)	今後の改正検討進捗に合わせ、展開支援文書の情報も提供する予定です。
特殊工程検討WG: コンボジット 設備の維持・管理(クリーンルーム、オートクレーブ...)	現状では検討の計画はありませんが、今後、ご要望が多ければ検討を実施致します。
スペースフォーラム: 10年近くたって具体的な成果が見えない。活動ロードマップが必要では。	この10年間の活動でスペースフォーラムメンバー組織を中心に確実に宇宙組織にも9100が適用、浸透してきております。更に2014年度に5か年計画(ロードマップ)を策定しました。今年度は、計画に基づき9100をベースとしたJAXA品質プログラム制定"を目指し、JAXA殿と一緒に活動し目途付けできました。今後も計画に基づき活動を推進していきます。
規格検討WG: JIS Q 9100改正	今後も国内からの意見を9100改正へ具申できるよう、継続して取り組みます。
SCMH WG: SMSとQMSのインテグレーション	SMSにしましては、JAQG SCMH WGでは、現状特別な取り組みの計画はありません。今後IAQG SCMHとも協議し、取り組みを検討していきたいと考えています。
特殊工程検討WG: CQIとの関連性	現状では検討の計画はありませんが、今後、ご要望が多ければ検討を実施致します。
要員能力検討WG: BOK	現在、開発中であり、今年度中に成果が出るように努めます。
要員能力検討WG: 内容について具体例も含めて充実するとよい	今後の報告会説明時の改善点として検討します。
特殊工程検討WG: Nadcap受賞への対応・サポート	申し訳ありませんが、現状では、個々のサプライヤ様へのNadcap取得対応・サポートを実施する予定はございません。特殊工程WGでは、Nadcap 日英対訳版の準備やPRIへの意見提言等を通じて、サプライヤ様のNadcap受賞をサポートしてまいります。
特殊工程検討WG: ACチェックリストをエクセル版で出してほしい	PRIとの調整により、pdf版以外の提供は不可能な状況です。
SCMH WG: よりたくさん事例と文書作製	IAQG SCMHチームとも共同してより多くのSCMHを作成していきます。
規格検討WG: MRB権限のパートナー委譲のガイドライン(手引き)	現状では規格化/ガイダンス文書の発行は予定されておられません。今後航空宇宙サプライヤチェーンでのニーズに応じ、規格化/ガイダンス文書作成などを検討していきたいと思っております。
SCMH WG: 大企業向けではない。中小企業が参考出来るガイダンス文書の作成	中小企業、零細企業にもわかり易いSCMHになるよう取り組んでいきます。
SCMH WG: SCMHの内容紹介セミナー、	前向きに検討していきたいと思っております。
スペースフォーラム: JAXA 9100採用支援	H26年度、スペースフォーラム活動の中心に位置付け支援しました。その結果、26年度中に9100をベースとしたJAXA品質プログラム標準案が作成されました。今後、各プロジェクトへの適用に向けた活動も支援していきます。
要員能力検討WG: HE再発防止活動の要点まとめ	今後のWG活動の参考とさせていただきます。
規格検討WG: AS9120の日本語化	SJAC 9120として日本語版の規格を作成・発行しております。
規格検討WG: AS9120の和文版 国内への普及	IAQGで作成されている9120改正概要の展開支援文書について、和訳版を作成中です。5月までにはIAQGウェブサイトメンバーへ公開予定です。
スペースフォーラム: プロジェクトマネジメント	SFでは9100関連規格への貢献についても議論を開始した所です。宇宙業界で活用されているプロジェクトマネジメントについても9100又は/及び関連規格へ反映すべき事項を協議する様にします。
規格検討WG: 規格文書の表現の改訂(平易文化他)	今後の規格作成・改正時に考慮します。なお、SJAC規格は、JIS規格の表記に係わる規格(JIS Z 8307)の要求も考慮し、作成しております。
全般: 当局への適用前提の働きかけ	継続した働きかけを行ってまいります。
SCMH WG: SJAC 9068展開に関するガイダンス	報告会で説明しましたとおり、報告会前にJAQGウェブサイトに掲載されている、適用事例の展開支援文書を参照願います。
SCMH WG: SJAC 9068展開に関するガイダンス	「強固な品質マネジメントシステム構築」のための、JAQGガイダンス文書が参考になると思います。また、本ガイダンス文書のSCMH化は実施中です。
全般: 見学会を開催して欲しい。	今後のJAQG活動の参考といたします。
特殊工程検討WG: Nadcap AC日英対訳版発行ありがとうございます。	ご活用頂き、ありがとうございます。ご要望等ございましたら、お寄せ頂ければ幸いです。
全般: ステークホルダー(特に国交省JCAB)との連携強化	継続した働きかけを行ってまいります。
要員能力検討WG: ヒューマンファクターの発生事例に対するチェックリスト(分類)などのツール又は、紹介など	今後の報告会説明時の改善点として検討します。

10. 募集した場合、参加したいJAQGのWG

	積極的な参加希望ありがとうございました。今後、特定のテーマの検討等のため、JAQGメンバー様を対象に必要なに応じ、WGメンバーの募集を行います。WG参加条件等はウェブにて開示予定です。
--	--

11. 改善が必要と思う規格番号と理由等	
SJAC 9101E 様式1~6の各欄番号に対応する記入要領がない。(SJAC9101Dでは存在していた)プレクス社の9101E研修コースには記入要領あり	JAQGウェブサイトに掲載しています。
SJAC 9068: 客先より指示ない。具体的な事例あれば助かる。	報告会で説明しましたとおり、報告会前にJAQGウェブサイトに掲載されている、適用事例の展開支援文書を参照願います。
SJAC規格がどのAS規格のRevを適用したのか、引用規格の項目を作って明確にしてほしい。	以下リンク先のIAQGウェブサイトに情報がおりますので、参照願います。 http://www.sae.org/iaqg/publications/standardsregister.pdf
SJAC 9102: 記録を作るだけの作業になってしまっている。	今後の規格改正時の改善点とします。
SJAC 9068: 要求事項として、明確な記述となっていない適応した内容がはっきりしない。(現状の活動にどうプラスされているのか?)	報告会で説明しましたとおり、報告会前にJAQGウェブサイトに掲載されている、適用事例の展開支援文書を参照願います。
SJAC 9068: 顧客要求として展開の必要性	SJAC 9068は、JIS Q 9100から呼ばれるものではありません。従って、取引先へ展開する場合、契約要求・仕様書又は注文書にSJAC 9068を引用する必要があります。
15. その他 要望・コメント	
Nadcap AC和訳は非常に有益に使用しております。ありがとうございます。	ご活用頂き、ありがとうございます。ご要望等ございましたら、お寄せ頂ければ幸いです。
SJAC、SCMHでのガイダンス等について、講習会を行っていただきたい。特に9068については、定期的に関わっていただきたい。様々な事例によって末端までの理解が深まるのでそれらの紹介も提供も促進頂きたいと思っております。	ガイダンス文書の講習会については、前向きに検討していきたいと思っております。
9100、Nadcapを取得することによって期待される(OASISの)メリットが促進されるように、プライムメーカーへ積極的に働きかけて頂きたい。	航空・宇宙・防衛の要求が1元化された9100、Nadcapの取得にによって手順等の効率化が図られていると考えております。引き続き促進していきます。
9100は「航空宇宙防衛分野」に対しての要求事項であるが、全てが包含されるとレベルが高すぎ、コスト削減方向に展開は難しい。レベルアップは必要であるが、「航空」、「宇宙」、「防衛」を切り分けて適用できる形も模索して頂きたい。	今後の9100改正活動において、ご意見の観点も考慮します。一方で、「航空」、「宇宙」と「防衛」を切り分けることにより「共通の要求事項」ではなく、規格要求の複雑化・複数化に伴い、逆にプライム・サプライヤ双方の管理工数UPにつながるリスクがあります。
規格を作成する途中で各社の設計部門や製造部門等の実行部門の意見・要望も聴取して欲しい。	今後の活動において、ご指摘の観点も考慮し対応します。
次回規格改訂(2016版)では各項目の改訂の背景・目的を説明してほしい。活動内容の報告は短くてもよいのではないかと。	今後の改正検討進捗に合わせ検討される、展開支援文書作成時に考慮いたします。
全社(サイト)の従業員数と認証文書発行数わかる表を知りたい。	JIS Q 9100認証文書発行数に関しましては、報告会配付資料(PP2.4-9)に掲載しており、524です。(2015.1.28現在) サイトの従業員数に関しましては、公開しておりません。
ヒューマンファクターズ資料希望	JAQGのメンバーウェブサイトダウンロード可能です。
SCMHを活用したいとは思っています。中小企業でPRIプライムの航空機部品製造実績のない場合、Nadcap取得の可能性が限りなく低くなる。それでも取組もうとする場合の指針や方向性など示して頂けると助かります。(JAQGの主旨からは外れるかも知れませんが・・・)	それぞれのサプライヤ様で状況や事情が異なることから、ご提案のようなNadcapへの取組指針や方向性等について、一律に記述することが難しい状況です。Nadcap取得の進め方については、PRI様のホームページに詳細な情報がございますので、そちらをご参照下さい。
WGへの参加プロセスが決まれば教えてください。	検討中です。
SJAC9104-3Aが発行された場合、審査チームにおいて、チームリーダーALA、メンバーでAELAにするといったケースは考えられますでしょうか。現在全てのサイトでAELAが帯同するという要求があり、審査員の負担増、審査員の不足のリスクが発生しております。	現在IAQGで検討中の9104-003改定案ではALA及びAELAの資格区分を設定しておりますが、認証機関の審査チームに関する要求事項は9104-001(SJAC9104-1) 8.3項で規定しているため、9104-003改定版の発行に伴い、9104-001の当該規定に関するIAQG OPMT Resolutionを発行することで審査チームに関する要求事項を明確にする予定です。従いまして、現段階では審査チーム内のALA及びAELAの役割についてはIAQG OPMT内でまだ議論しておりませんので、明確な回答はできない状況にあります。尚、ご参考までに9104-003改定案の検討においてALAは現行のAELAに相当する資格という意図で検討してきた経緯から、JRMICとしてはIAQG OPMT Resolutionの検討において現行のAELAと同じ位置づけとする方向で提案したいと考えております。
ISO9001の改正(サービス機関等を含む一般産業の品質規格)と9100規格(航空・宇宙・防衛の業界セクター規格)の適用範囲/対象の違いからISO9001の改正に追従した改訂が9100側で必要なのかどうか疑問です。「一般化」と「統合化」の相反する対象に対する対応はどうかあるべきなのか、基本的な考え方を詳しく聞きたい。	IAQGでも同様な議論があり、そのため報告会でご説明したとおり、ISO 9001ベースの規格のまま維持するかどうかIAQGで評価しました。結果的に規格維持(ISO 9001ベースの9100規格とする)が決定されました。その考え方としては、一般産業、あるいは、航空、宇宙及び防衛産業を問わず、それらに必要なQMS要求の基本的要素は共通と考えられるためです(補足すると、MS(マネジメントシステム)のレベルでも共通という考えから、ISOではAnnex SLが作成された背景があります。)。なお、9100規格は、規格の要求事項だけではなく、その認証制度と併せて活用することにより、組織・顧客にとって、より有効なものとなっております。
各プライムの供給者に対する品質要求事項(例:MSJ4000等)の統一化はできませんか?	JIS Q 9100規格の普及はさらに促進して参りますが、各社の品質保証の仕方にはそれぞれ考えがあり、9100でカバーしていないプラスアルファ分については残ると思われます。今後も議論していきます。
防衛省の検査官出身のAEA資格取得が困難になりつつあると聞きましたが、他セクターでの傾向はどうでしょうか?最終顧問から見た審査ができるということから、その芽をつぶしてはいけないと思っております。(できればFAQで取り上げてほしい。)	APAQGからのコメントとして提出済ですが、他セクターからのコメントには同様な意見は出ていない模様です。従って、現状、反映される可能性は低い状況にありますが、検討の提案は実施しています。
JAQG事務局が行っているOASISへのデータの入力を迅速に行っていただけますようお願いいたします。	データ入力担当者の作業時間の増加で対応しています。
OASISの説明をウェブ画面での入門編を実際に進めてもらおうと大変助かります。(特に最初が戸惑います。英文もあり)	今後の参考に致します。
会場の手狭への陳謝があったが事務局も例年を参考にしていたと思われる。途中で変更する勇気も必要と考える。	大きめの会場を早めに予約する等、今後改善に努めます。2月はよい会場は予約が一杯で会場変更は困難です。
とてもわかりやすかったのですが、午後の部はもう少し時間割に余裕があるとさらによい。(もっと集約してもよいのではないかと?)	今後の報告会説明時の改善点として、内容について分かり易く簡潔に説明するよういたします。
無理して午前と午後の部に分ける必要はない。平成27年度は(以前の形に)戻して欲しい。平成25年度のプログラムの方がテーマが全体から細部になってわかりやすかった。平成26年度は行った。来たりてわかりにくかった。	今後の報告会説明時の改善点として、内容について分かり易く簡潔に説明するよういたします。
ISO9001/2015が2015.9~2018.9、9100/2016が2016.4~?となっておりますが、認証機関の認証能力は(時間的要素)問題ないのでしょうか。JCABがJIS Q 9100取得を持って、品質確認を省略するという可能性はないでしょうか。	JISQ9100の改正版の移行に伴う認証機関の対応については、確実な移行を実施できるようにOPMTより移行に伴う規定を制定する予定です。 JISQ9100認証取得によるJCABの品質確認の省略については、これまでIAQGLレベルでも航空当局の監査等における活用について働きかけを実施してきましたが、実現には至っておりません。 今後も航空当局を含め、ステークホルダー様と継続的に関係構築改善を進め、認証制度の信頼をより確実なものとする中で可能性が出てくると考えています。
・特殊工程について、 ・Nadcapの取得の進め方 ・NAS410レベル3の取得方法 について、Webに分かりやすく掲載いただけるとありがたいです。 ・NadcapのNIPについて和訳してほしいです。 上記について、WG主査様にも質問・要望させていただきました。 会員以外でも情報が見られるように(SJAC発行、その他)検討ください。	Nadcap取得の進め方については、PRI様のホームページに詳細な情報がございまして、そちらをご参照下さい。また、NAS410レベル3の取得方法に関する情報の記載については、今後、検討させていただきます。 NIP和訳については、現在はAC日英対訳版の準備推進を優先して進めているため、現状では予定がありませんが、今後、ご要望が多ければ、実施について検討致します。 公共性の高い情報については、今後も一般公開致します。 年会費をお支払い頂いたJAQGメンバー様のメリットとして、一部の情報はメンバー限定とさせていただきます。ご理解下さい。